

指定確認検査機関確認検査業務規程

株式会社 オーネックス

平成 20 年 4 月 1 日 制定

平成 22 年 1 月 26 日 改定

確認検査業務規程

第1章 総 則

第1条 (趣旨)

第2条 (用語の定義)

第2章 確認検査の業務の公正かつ適確な実施を確保するための方針及び体制

第1節 方針・運営及び権限と責任

第3条 (確認検査業務実施の基本方針)

第4条 (確認検査業務管理体制の運営、責任と権限)

第5条 (確認検査業務管理体制の見直し)

第6条 (確認検査業務の組織体制)

第2節 確認検査業務の手順

第7条 (確認検査業務の手順)

第3節 文書管理及び記録の管理

第8条 (文書管理及び記録管理)

第4節 要員及び服務

第9条 (確認検査員の選任)

第10条 (確認検査員の解任)

第11条 (確認検査員の配置)

第12条 (確認検査員等の身分証の携帯)

第3章 確認検査の業務の実施方法等

第1節 一 般

第13条 (確認検査を行う時間及び休日)

第14条 (事務所の所在地及びその業務区域)

第15条 (業務の範囲)

第16条 (確認検査業務の処理期間)

第2節 確 認

第17条 (確認の申請、受付、引受及び契約)

第18条 (業務約款に盛り込むべき事項)

第19条 (確認の実施)

第20条 (消防長等の同意等)

第21条 (保健所通知)

- 第 22 条 (確認済証の交付等)
- 第 23 条 (確認申請の取り下げ)
- 第 24 条 (確認を受けた計画の変更の申請)
- 第 25 条 (確認の記録)

第 3 節 中間検査

- 第 26 条 (中間検査申請の引受及び契約)
- 第 27 条 (業務約款に盛り込むべき事項)
- 第 28 条 (中間検査の実施)
- 第 29 条 (中間検査の結果)
- 第 30 条 (中間検査の申請の取り下げ)
- 第 31 条 (中間検査の記録)

第 4 節 完了検査

- 第 32 条 (完了検査の引受及び契約)
- 第 33 条 (業務約款に盛り込むべき事項)
- 第 34 条 (完了検査の実施)
- 第 35 条 (完了検査の結果)
- 第 36 条 (完了検査の申請の取り下げ)
- 第 37 条 (完了検査の記録)

第 4 章 確認検査手数料等

- 第 38 条 (確認検査手数料の設定)
- 第 39 条 (確認検査手数料の収納)
- 第 40 条 (確認検査手数料の返還)

第 5 章 確認検査業務の監視、改善方法

- 第 41 条 (苦情等の事務処理)
- 第 42 条 (内部監査)
- 第 43 条 (不適格案件等の管理)
- 第 44 条 (再発防止措置)

第 6 章 その他確認検査業務の実施に関し必要な事項

- 第 45 条 (書類の備置及び閲覧)
- 第 46 条 (事前相談)
- 第 47 条 (電子情報処理組織に係る情報の保護)
- 第 48 条 (図書が円滑に引渡しされるための措置)

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この確認検査業務規程（以下「規程」という。）は、株式会社オーネックス（以下「機関」という。）が、建築基準法（昭和25年法律第201号。以下「法」という。）第77条の18から第77条の21までの規定に定める指定確認検査機関として行う確認、中間検査及び完了検査に関する業務（以下「確認検査業務」という。）の実施について、法第77条の27の規定に基づき必要な事項を定める。

(用語の定義)

第2条 この規程において次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 補助員 確認検査の補助的な業務を行う職員をいう。
- (2) 確認検査員等 確認検査員及び補助員をいう。
- (3) 役員 建築基準法施行令（昭和25年政令第338号。以下「令」という。）第136条の2の14第2号に規定する役員をいう。
- (4) 親族 配偶者並びに二親等以内の血族及び姻族をいう。
- (5) 関係企業等 次のいずれかに該当する企業、団体等をいう。
 - イ その者またはその親族が総株主（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株主を除く。以下同じ。）又は総出資者の議決権の百分の五以上を有している企業、団体等。
 - ロ その者が所属する企業、団体等（過去二年間に所属していた企業、団体等を含む。）
 - ハ その者の親族が役員である企業、団体等（過去二年間に役員であった企業、団体等を含む。）
- (6) 制限業種 次に掲げる業種（建築主事が確認検査を行うこととなる国、都道府県又は建築主事を置く市町村の建築物に係るもの及び建築主事を置かない市町村の建築物に係る工事監理業を除く。）をいう。
 - イ 設計・工事監理業（工事請負契約事務、工事の指導監督、手続の代理等の業務及びコンサルタント業務を含む。ただし、建築物に関する調査、鑑定業務は除く。）
 - ロ 建設業（しゅんせつ工事業、造園工事業、さく井工事業等建築物又はその敷地に係るものではない業務を除く。）
 - ハ 不動産業（土地・建物売買業、不動産代理・仲介業、不動産賃貸業及び不動産管理業を含む。）
 - ニ 建築設備の製造、供給及び流通業

第2章 確認検査の業務の公正かつ適確な実施を確保するための方針及び体制

第1節 方針・運営及び権限と責任

(確認検査業務実施の基本方針)

第3条 機関は、法、法に基づく命令及び条例、これら関わる技術的助言、法第18条の3に基づく確認審査等に関する指針（以下「指針」という。）、その他関係法令並びにこの規程の要件に従うとともに、公共の福祉の増進に資する確認検査業務の使命に鑑み、確認検査業務を公正かつ適確に実施するものとする。

2 代表取締役は、毎年度、確認検査業務が公正かつ適確に行われようにするために、目標の設定及び見直しのための枠組み、これらを社内で共有する方法等について方針（以下「確認検査業務実施方針」という。）として定め、社員に周知する。

(確認検査業務管理体制の運営、責任と権限)

- 第4条 代表取締役は、確認検査業務の指定区分及び業務区域並びに業務量見込みに応じて、この規程に従って業務が公正かつ適確に行われるために必要な体制を構築するとともに、その実行のために必要な規則（以下「確認検査業務管理規則」という。）を定め、社員（非常勤職員を含む。）に周知し、実施させる。
- 2 確認検査業務管理規則には、少なくとも以下に掲げる事項について、その実施に必要な事項を定める。
 - (1) 確認検査業務管理体制の見直し
 - (2) 文書及び記録の管理
 - (3) 苦情等事務処理
 - (4) 内部監査
 - (5) 不適格案件管理
 - (6) 再発防止措置
 - (7) 秘密の保持
 - 3 代表取締役は、機関が行う確認検査業務の品質保証を担当する役員として、確認検査業務管理責任者を任命する。
 - 4 確認検査業務の実施に係る最高責任者は代表取締役とし、確認検査業務管理責任者が確認検査業務に係る管理の責任と権限をもつ。

(確認検査業務管理体制の見直し)

- 第5条 代表取締役は、機関の確認検査業務管理体制が引き続き適切、妥当で、かつ効果的であることを確実にするために、年1回、次事業年度の開始前までに、定期的に確認検査業務管理体制の見直しを行う。また、機関及び機関の業務をとりまく環境の変化、社会的要請の変化、内部監査の結果、外部からの要求等により必要と判断した場合には、随時、確認検査業務管理体制の見直しを行う。
- 2 確認検査業務が公正かつ適確に行われることを確実にするために、確認検査業務管理体制を継続的に改善する。

(確認検査業務の組織体制)

- 第6条 代表取締役は、確認検査業務が公正かつ適確に行われることを確実にするため、申請建物の規模や用途、確認検査業務に従事する職員の構成に応じた確認検査の組織体制を構築する。
- 2 確認検査業務に従事する職員は、その職務の執行に当たって厳正、かつ公正を旨とし、不正の行為のないようにしなければならない。
 - 3 確認検査業務管理責任者は、確認検査業務に従事する職員が、前項を満たして業務を行うことを確実にするための業務体制を構築するものとする。

第2節 確認検査業務の手順

(確認検査業務の手順)

- 第7条 確認検査業務が、この規程に従って常に公正かつ適確に行われることを確実にするため、代表取締役は、確認検査の具体的な手順その他確認検査業務の実施に必要なすべての事項を含む確認検査業務実施マニュアル（以下「マニュアル」という。）を定め、これに従い確認検査員等に確認検査業務を実施させる。
- 2 マニュアルには、法適合の確認、検査の具体的な方法及びこれが行われたことがその全過程を通じて追

跡、確認できる方法を定める。

- 3 代表取締役は、マニュアルを最新の状態に維持し、確認検査員等がいつでも利用できるように徹底する。

第3節 文書管理及び記録の管理

(文書管理及び記録管理)

- 第8条 確認検査業務が常に公正かつ適確に行われることを確実にするため、建築主等との打ち合わせ、指摘事項とその対応及びその実施の確認その他確認検査業務の実施過程で行われた事柄に関する記録を作成し、原則として15年間保存するものとする。
- 2 第1項の記録、確認検査の申請図書その他の文書(以下「文書」という。)は、容易に識別、検索でき、必要に応じて参照できるよう適確に保管、管理を行うものとする。
 - 3 文書は、作成に先立ち、権限を与えられた者がその適切性を審査し、承認する。
 - 4 文書は、必要に応じ更新し、履歴を記録する。

第4節 要員及び服務

(確認検査員の選任)

- 第9条 代表取締役は、確認検査業務を実施させるため、設計・工事監理業、建設業、不動産業並びに建築設備の製造、供給及び流通業を兼業しない常時雇用職員である確認検査員を3名以上選任し、うち2名以上を専任とする。
- 2 前項の確認検査員の数は、前年度の確認、中間検査及び完了検査の実績に応じ、建築基準法に基づく指定資格検定機関等に関する省令(平成11年建設省令第13号。以下「指定機関等に関する省令」という。)第16条の規定により必要とされる人数以上となるように毎年度見直しを行う。
 - 3 前2項の規定に関わらず、代表取締役は、確認、中間検査及び完了検査の申請件数の増加が見込まれる場合にあつては、すみやかに、新たな確認検査員(非常勤の確認検査員を含む。)を雇用する等の適切な措置を講ずる。

(確認検査員の解任)

- 第10条 代表取締役は、確認検査員が次のいずれかに該当する場合は、その確認検査員を解任する。
- (1) 法第77条の20第5号の規定に適合しなくなったとき。
 - (2) 法第77条の62の規定により国土交通大臣の建築基準適合判定資格者登録の削除があつたとき。
 - (3) 前号のほか、職務上の業務違反その他確認検査員としてふさわしくない行為があつたとき。
 - (4) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき。

(確認検査員の配置)

- 第11条 確認検査業務に従事する職員を、第9条の確認検査員を含めて5人以上(本社に3人以上、各支店に2人以上)配置する。
- 2 各支店の確認検査員が休暇を取る場合その他の事情により、確認検査業務を実施できない場合にあつては、本社の確認検査員が各支店において臨時に確認検査業務を行う。ただし、緊急の場合にあつては、本社で確認検査業務を行うことができる。
 - 3 代表取締役は、第10条の規定に基づく処置を行った場合には、支店(本社を含む。)がそれぞれの見

込まれる業務量を適正に処理できるよう、確認検査業務に従事する職員の配置を見直す。

(確認検査員等の身分証の携帯)

第12条 確認検査業務に従事する職員が、建築物等、建築物等の敷地若しくは建築工事場等に立ち入る場合においては、その身分を示す証明証を携帯し、関係者に提示しなければならない。

2 前項の身分証の様式は、附属文書様式A-01による。

第3章 確認検査の業務の実施方法等

第1節 一 般

(確認検査業務を行う時間及び休日)

第13条 確認検査業務を行う時間は、休日を除き、午前9時から午後5時30分まで（土曜日については、午後3時まで）とする。

2 第1項の休日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日
- (2) 土曜日（ただし寝屋川支店のみ）
- (3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (4) 年末年始並びにお盆（日程については年度毎に定め掲示する。）
- (5) その他、機関が定める日

3 第1項の確認検査業務を行う時間及び第2項の休日の規定については、緊急を要する場合又は事前に機関と建築主との間において確認検査業務を行うための日時の調整が整った場合は、これらの規定によらないことができる。

(事務所の所在地及びその業務区域)

第14条 確認検査業務の業務区域は、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県及び和歌山県の全域とする。

2 本店の所在地は、大阪府茨木市駅前4丁目1番23号光徳ビルとし、その業務区域は、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県及び和歌山県の全域とする。

3 寝屋川支店の所在地は、大阪府寝屋川市本町16番1号かわちビル3階とし、その業務区域は、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県及び和歌山県の全域とする。

(業務の範囲)

第15条 確認検査業務を行う範囲は、法第6条第1項各号に掲げる建築物に係る確認並びに法第7条の4及び第7条の2に規定する検査とする。

2 前項の規定に関わらず、機関は、次に掲げる者が建築主である建築物又は設計、工事監理、施工その他の制限業種に係る業務を行う建築物について、その確認検査業務を行わない。

- (1) 代表取締役又は確認検査業務管理責任者
- (2) (1)に掲げる者の親族
- (3) (1)に掲げる者の関係企業等

(確認検査業務の処理期間)

第16条 機関は、申請建物の規模や用途に応じた標準的な確認検査業務の処理期間を定め、提示する。

第2節 確 認

(確認の申請、受付、引受及び契約)

第17条 建築主は、建築基準法施行規則(昭和25年建設省令第40号。以下「施行規則」という。)第1条の3、第2条の2又は第3条(これらの規定を第3条の3第1項から第3項まで又は第8条の2第1項、第6項若しくは第7項において準用する場合を含む。)の規定による申請書に次に掲げる書類を添えて確認の申請を行うものとする。

- (1) 次の通知書の写し(該当する場合に限る。)イ 施行規則第10条の4に規定する許可関係規定による特定行政庁の許可通知書 2通ロ 施行規則第10条の4の2に規定する認定関係規定並びに法第86条第1項又は第2項及び法第86条の2第1項の規定による特定行政庁の認定通知書 2通ハ 法第86条の5第2項の規定による特定行政庁の認定取消通知書 2通
- (2) 法の規定に基づく条例の規定による地方公共団体の長の許可書及び認定書の写し(該当する場合に限る。) 2通
- (3) 地方公共団体が道路・敷地に関し証明書等を発行している場合は当該証明書等 1通
- (4) 当該建築計画に係る制限業種に係る業務を行う企業等の一覧

2 前項の申請は、予め機関と協議した上で機関が指定する方法で、電子情報処理組織(機関の使用に係る電子計算機(入出力装置を含む。以下同じ。))と建築主の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。)又は磁気ディスク(これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。以下同じ。)にて行うことができる。

3 機関は、第1項の確認の申請があったときは、次の事項について審査してこれを引受ける。

- (1) 申請のあった建築物等が機関の指定区分に合致する建築物等であること。
 - (2) 設計者が当該計画の設計資格を有し、かつ建築士法の規定に違反していないこと。
 - (3) 提出図書に不足がなく、かつ記載事項に漏れがないこと。
 - (4) 申請に係る計画の内容に明らかな瑕疵がないこと。
 - (5) 申請に係る計画が第15条第2項の規定に該当するものでないこと。
- 4 前項の規定において、確認申請関係図書に不備を認めるときは補正を求め、補正の余地のないときは引き受けできない理由を説明し、確認申請関係図書を建築主に返却する。
- 5 第3項により申請を引受けた場合には、機関は、建築主に引受承諾書(附属文書様式A-02)を交付する。この場合、建築主と機関は別に定める「確認検査業務約款」(以下「業務約款」という。)に基づき契約を締結したものとする。
- 6 建築主が、正当な理由なく、引受承諾書に定める額の手数料を業務約款に規定する支払期日までに支払わない場合には、機関は第3項の引受を取り消すことができる。
- 7 機関は、前6項の規定に関わらず、確認、中間検査又は完了検査の申請件数が見込みを相当程度上回った場合において、適正に確認を実施することが困難な場合には、確認業務を引受けない。

(業務約款に盛り込むべき事項)

第18条 前条の業務約款には、少なくとも次の事項を盛り込むこととする。

- (1) 建築主は、機関の請求があるときは、機関の確認業務遂行に必要な範囲内において、申請に係る計画に関する情報を遅滞なくかつ正確に機関に提供しなければならない旨の規定
- (2) 建築主は、申請に係る計画に関し機関がなした建築基準関係法令への適合性の疑義等に対し、追加

検討書の提出その他の必要な措置をとらなければならない旨の規定

- (3) 確認が法第6条の2第3項に規定する構造適合性判定を要する建築物等に係るものである場合であつて、法第6条の2第6項に規定する通知書の交付を受けたときは、機関は当該通知書に記載された期間の限りにおいて、確認の期限を延長することができる旨の規定
- (4) 機関は、機関の責めに帰することができない事由により、業務期日までに確認済証を交付できない場合には、建築主に対しその理由を明示の上、業務期日の延長を請求することができる旨の規定

(確認の実施)

第19条 機関は、確認申請を引受けたときは、申請に係る計画が建築基準関係規定に適合しているかどうかの審査を確認検査員に実施させる。

2 確認検査員等は、次に掲げる者が建築主である建築物又は設計、工事監理、施工その他の制限業種に係る業務を行う建築物について、確認の業務を行わない。

- (1) 当該確認検査員等
- (2) 当該確認検査員等の親族
- (3) 当該確認検査員等の関係企業等

3 確認検査員は、指針及びマニュアルに基づき、確認申請関係図書をもって、前項の審査を行う。この場合、必要に応じ、建築主等に説明等を求めることとする。

4 補助員は、確認検査員の指示に従い、申請の受付、計画内容の予備審査等の補助的な業務のみを行い、単独で確認業務を行わない。

(消防長等の同意等)

第20条 機関は、法第93条第1項の規定に基づき、消防長等の同意を求める場合には、附属文書様式A-03に、建築主から提出された書類及び図書を添えて行う。

2 機関は、法第93条第4項の規定に基づき、消防長等に対して通知を行う場合には、確認申請の引受後、遅滞なく附属文書様式A-04に、規則別記第3号様式による建築計画概要書を添えて行う。

(保健所通知)

第21条 機関は、法第93条第5項の規定に基づき、保健所長に通知を行う場合には、確認申請の引受後、遅滞なく附属文書様式A-05により行う。

(確認済証の交付等)

第22条 機関は、第19条の審査の結果、申請に係る建築計画が、建築基準関係規定に適合するものであることを確認したときにあつては施行規則別記第15号様式による確認済証を、建築基準関係規定に適合しないことを認めたときにあつては施行規則別記第15号の2様式による通知書を、建築基準関係規定に適合するかどうかを決定することができないときにあつては施行規則別記第15号の3様式による通知書を、建築主に対してそれぞれ交付する。

2 第1項に規定する確認済証又は適合しない旨の通知書の交付は、確認申請関係図書のうち確認に要したものの1部を添えて行う。

3 前項の図書の交付は、予め機関と協議した上で機関が指定する方法で、電子情報処理組織又は磁気ディスク等にて行うことができる。

(確認の申請の取り下げ)

第 23 条 建築主は、建築主の都合により確認済証の交付前に確認の申請を取り下げる場合は、その旨及び理由を記載した取り下げ届（附属文書様式 B-01）を機関に提出する。

2 機関は、前項の申請があったときは、審査を中止し、提出された確認申請関係図書を建築主に返却する。

（確認を受けた計画の変更の申請）

第 24 条 確認済証の交付後に、当該確認を受けた建築物等の計画が変更（施行規則第 3 条の 2 に規定する軽微な変更を除く。）され、機関に当該変更計画の確認の申請がなされた場合の確認の業務の実施方法は、第 17 条から前条までの規定を準用する。

（確認の記録）

第 25 条 確認検査員等は、申請のあった建築物等の計画の建築基準関係規定ごとの適否、確認業務の実施にあたり行った指示、指摘及びこれらに対する建築主等の回答、措置等を遅滞なく記録する。

第 3 節 中間検査

（中間検査申請の引受及び契約）

第 26 条 建築主は、施行規則第 4 条の 8 の規定による中間検査の申請書に次に掲げる書類を添えて中間検査の申請を行うものとする。

（1） 申請に係る工事中の建築物等の計画に係る確認（確認を受けた建築物等の計画の変更に係る確認を受けた場合にあつては当該確認。第 32 条（完了検査の申請）において同じ。）に要した図書。

（2） 当該工事中の建築物等が中間検査合格証の交付を受けている場合は、当該合格証の写し。

（3） 当該工事中の建築物等に係る制限業種に係る業務を行う企業等の一覧

2 当該工事中の建築物等の計画に係る確認を行った者が機関である場合においては、建築主は、第 1 項第 1 号に規定する図書の提出を要しない。

3 当該工事中の建築物等の中間検査合格証の交付を行った者が機関である場合においては、建築主は、第 1 項第 2 号に規定する図書の提出を要しない。

4 機関は、第 1 項の申請があったときは、次の事項について審査してこれを引受ける。

（1） 申請のあった工事中の建築物等が機関の指定区分に合致する建築物等であること。

（2） 工事監理者が当該工事中の建築物等の工事監理資格を有し、かつ建築士法の規定に違反していないこと。

（3） 提出図書に不足がなく、かつ記載事項に漏れがないこと。

（4） 当該工事中の建築物等が第 15 条第 2 項の規定に該当するものでないこと。

5 機関は、前項の規定において、中間検査申請関係図書に不備を認めるときは補正を求め、補正の余地のないときは引き受けできない理由を説明し、中間検査申請関係図書を建築主に返却する。

6 第 4 項により申請を引受けた場合には、機関は、建築主に中間検査引受証（規則別記第 29 号様式）を交付する。この場合、建築主と機関は別に定める業務約款に基づき契約を締結したものとする。

7 建築主が、正当な理由なく、中間検査引受証に定める額の手数料を業務約款に規定する支払期日までに支払わない場合には、機関は第 4 項の引受を取り消すことができる。

8 機関は、前 7 項の規定に関わらず、確認、中間検査又は完了検査の申請件数が見込みを相当程度上回った場合において、適正に中間検査を実施することが困難な場合には、中間検査の業務を引受けない。

(業務約款に盛り込むべき事項)

第 27 条 前条の業務約款には、少なくとも次の事項を盛り込むこととする。

- (1) 建築主は、機関が中間検査業務を行う際に、当該申請に係る建築物等、建築物等の敷地又は工事場に立ち入り、業務上必要な検査を行うことができるよう協力しなければならない旨の規定
- (2) 建築主は、機関の請求があるときは、機関の中間検査業務遂行に必要な範囲内において、申請に係る工事中の建築物等に関する情報を遅滞なくかつ正確に機関に提供しなければならない旨の規定

(中間検査の実施)

第 28 条 機関は、中間検査を引受けたときは、検査の対象となる工事が終了した日から 4 日以内のあらかじめ定めた中間検査予定日（機関又は建築主の都合により、中間検査予定日に検査が行えない場合は、別に協議して定める日）に、申請に係る工事中の建築物等が建築基準関係規定に適合するかどうかの検査を確認検査員に実施させる。

- 2 確認検査員等は、第 19 条第 2 項各号に掲げる者が建築主である建築物又は設計、工事監理、施工その他の制限業種に係る業務を行う建築物について、中間検査の業務を行わない。
- 3 確認検査員は、指針及びマニュアルに基づき、実地にて目視及び必要に応じて実施する外観の寸法の計測等により、前項の検査を行う。この場合、必要に応じ、建築主等に説明等を求める。
- 4 補助員は、確認検査員の指示に従い、申請の受付、検査記録の作成等の補助的な業務のみを行い、単独で検査を行わない。

(中間検査の結果)

第 29 条 機関は、建築主に対し、前条の検査の結果、特定工程に係る工事中の建築物等が、建築基準関係規定に適合することを認めたときにあっては施行規則別記第 3 1 号様式による中間検査合格証を、建築基準関係規定に適合しないことを認めたときにあっては施行規則別記第 3 0 号の 2 様式による中間検査合格証を交付できない旨の通知書をそれぞれ交付する。

- 2 第 1 項に規定する中間検査合格証又は中間検査合格証を交付できない旨の通知書の交付は、第 26 条第 1 項に規定する書類のうち提出があったもの 1 部を添えて行う。
- 3 前項の図書の交付は、予め機関と協議した上で機関が指定する方法で、電子情報処理組織又は磁気ディスク等にて行うことができる。

(中間検査の申請の取り下げ)

第 30 条 建築主は、建築主の都合により、中間検査合格証又は中間検査合格証を交付できない旨の通知書の交付前に中間検査の申請を取り下げる場合は、その旨及び理由を記載した取り下げ届（附属文書様式 B-02）を機関に提出する。

- 2 機関は、前項の申請があったときは、検査を中止し、提出された中間検査申請関係図書を建築主に返却する。

(中間検査の記録)

第 31 条 確認検査員等は、当該工事中の建築物等の中間検査における建築基準関係規定ごとの適否、中間検査業務の実施にあたり行った指示、指摘、これらに対する建築主等の回答、措置等を記録するものとする。

第4節 完了検査

(完了検査の引受及び契約)

第32条 建築主は、施行規則第4条の規定による完了検査の申請書に次に掲げる書類を添えて完了検査の申請を行うものとする。

- (1) 申請に係る建築物等の計画に係る確認に要した図書
- (2) 当該建築物等が中間検査合格証の交付を受けている場合は、当該合格証の写し
- (3) 当該建築物等に係る制限業種に係る業務を行う企業等の一覧
- 2 当該建築物等の計画に係る確認を行った者が機関である場合においては、建築主は、前項第1号に規定する図書の提出を要しない。
- 3 当該建築物等の中間検査合格証の交付を行った者が機関である場合においては、建築主は、第1項第2号に規定する図書の提出を要しない。
- 4 機関は、第1項の申請があったときは、次の事項について審査してこれを引受ける。
 - (1) 当該建築物等が機関の指定区分に合致する建築物等であること。
 - (2) 工事監理者が当該建築物等の工事監理資格を有し、かつ建築士法の規定に違反していないこと。
 - (3) 提出図書に不足がなく、かつ記載事項に漏れがないこと。
 - (4) 当該建築物等が第15条第2項の規定に該当するものでないこと。
- 5 機関は、前項の規定において、完了検査申請関係図書に不備を認めるときは補正を求め、補正の余地のないときは引き受けできない理由を説明し、完了検査申請関係図書を建築主に返却する。
- 6 第4項により申請を引受けた場合には、機関は、建築主に完了検査引受証(規則別記第22号様式)を交付する。この場合、建築主と機関は別に定める業務約款に基づき契約を締結したものとする。
- 7 建築主が、正当な理由なく、完了検査引受証に定める額の手数料を業務約款に規定する支払期日までに支払わない場合には、機関は第4項の引受を取り消すことができる。
- 8 機関は、前7項の規定に関わらず、確認、中間検査又は完了検査の申請件数が見込みを相当程度上回った場合において、適正に完了検査を実施することが困難な場合には、完了検査の業務を引受けない。

(業務約款に盛り込むべき事項)

第33条 前条の業務約款には、少なくとも次の事項を盛り込むこととする。

- (1) 建築主は、機関が完了検査業務を行う際に、当該申請に係る建築物等、建築物等の敷地又は工事場に立ち入り、業務上必要な検査を行うことができるよう協力しなければならない旨の規定
- (2) 建築主は、機関の請求があるときは、機関の完了検査業務遂行に必要な範囲内において、申請に係る建築物等に関する情報を遅滞なくかつ正確に機関に提供しなければならない旨の規定

(完了検査の実施)

第34条 機関は、完了検査を引受けたときは、工事が完了した日又は完了検査の引受を行った日のいずれか遅い日から7日以内のあらかじめ定めた完了検査予定日(機関又は建築主の都合により、完了検査予定日に検査が行えない場合は、別に協議して定める日)に、当該申請に係る建築物等が建築基準関係規定に適合するかどうかの検査を確認検査員に実施させる。

- 2 確認検査員等は、第19条第2項各号に掲げる者が建築主である建築物又は設計、工事監理、施工その他の制限業種に係る業務を行う建築物について、完了検査の業務を行わない。
- 3 確認検査員は、指針及びマニュアルに基づき、実地にて目視及び必要に応じて実施する外観の寸法の計測等により、前項の検査を行う。この場合、必要に応じ、建築主等に説明、作動試験の実施等を求め

ることとする。

- 4 補助員は、確認検査員の指示に従い、申請の受付、検査記録の作成等の補助的な業務のみを行い、単独で検査を行わない。

(完了検査の結果)

- 第 35 条 機関は、建築主に対し、前条の検査の結果、申請に係る建築物等が、建築基準関係規定に適合することを認めたとときあつては施行規則別記第 2 4 号様式による検査済証を、建築基準関係規定に適合しないことを認めたとときあつては施行規則別記第 2 3 号の 2 様式による検査済証を交付できない旨の通知書をそれぞれ交付する。
- 2 第 1 項に規定する検査済証又は検査済証を交付できない旨の通知書の交付は、第 32 条第 1 項に規定する書類のうち提出があつたもの 1 部を添えて行う。
 - 3 前項の図書の交付は、予め機関と協議した上で機関が指定する方法で、電子情報処理組織又は磁気ディスク等にて行うことができる。

(完了検査の申請の取り下げ)

- 第 36 条 建築主は、建築主の都合により、検査済証又は検査済証を交付できない旨の通知書の交付前に完了検査の申請を取り下げる場合は、その旨及び理由を記載した取り下げ届（附属文書様式 B-03）を機関に提出する。
- 2 機関は、前項の申請があつたときは、検査を中止し、提出された完了検査申請関係図書を建築主に返却する。

(完了検査の記録)

- 第 37 条 確認検査員等は、申請のあつた建築物等の完了検査における建築基準関係規定ごとの適否、完了検査業務の実施にあたり行つた指示、指摘、これらに対する建築主等の回答、措置等を記録するものとする。

第 4 章 確認検査手数料等

(確認検査手数料の設定)

- 第 38 条 機関は、確認検査業務の実施にかかる手数料を確認検査手数料規程に定める。

(確認検査手数料の収納)

- 第 39 条 建築主は、確認検査手数料を現金又は銀行振込みにより納入するものとする。ただし、緊急を要する場合には別の収納方法によることができる。
- 2 前項の払込に要する費用は申請者の負担とする。
 - 3 機関と建築主は、協議により、一括の納入等別の方法をとることができるものとする。
 - 4 機関は、類似する建築物の確認、中間検査及び完了検査等確認検査業務が効率的に実施できる場合にあっては、実費を勘案して確認検査手数料を減額することができるものとする。

(確認検査手数料の返還)

- 第 40 条 収納した確認検査手数料は返還しない。ただし、機関の責に帰すべき事由により確認検査が実施できなかった場合には、建築主に返還する。

第5章 確認検査業務の監視、改善方法

(苦情等の事務処理)

第41条 機関は、確認検査業務について当該業務の依頼者又は当該業務の他の当事者から受けた業務に関する苦情に適切に対処する。

- 2 機関は、法第94条第1項に規定する審査請求が行われた場合において、これに適切に対処する。
- 3 前2項の苦情、審査請求及びこれらに対して機関がとった処置は、遅滞なく記録するものとする。

(内部監査)

第42条 機関は、適切な確認検査業務管理体制が維持されているかどうかを検証するため、原則として年1回、内部監査を実施する。

- 2 内部監査においては次に掲げる事項を監査する。
 - (1) 法、法に基づく命令及び条例、これらに関わる技術的助言、指針、その他関係法令への適合状況
 - (2) この規程への適合状況
 - (3) 第3条第1項に規定する確認検査業務実施の基本方針への適合状況
 - (4) 確認検査業務管理体制の状況
 - (5) この規程の内容の見直しの必要性
- 3 監査された業務領域の責任者は、発見された不具合及びその原因を排除するための処置を講ずる。監査員はとられた処置の検証及び検証結果について確認検査業務管理責任者に報告するものとする。

(不適格案件等の管理)

第43条 機関は、不適格案件（建築基準関係規定に適合しない又は適合するかどうか決定できない案件について、誤って確認済証、中間検査合格証又は検査済証を交付したものをいい、法第6条の2第11項に規定する通知（以下「不適合通知」という。）を受けた案件を含む。以下同じ。）が発生した場合について適切な処理を確実に実施する。

- 2 機関は、確認済証、中間検査合格証又は検査済証を交付したあとに不適格案件であることが確認されたときは、速やかに建築主及び特定行政庁にその旨を報告するとともに、特定行政庁の指示のもと適切な措置をとる。
- 3 機関は、不適格案件について、案件の概要、不適合の内容、とられた措置の内容等に関して、記録する。

(再発防止措置)

第44条 機関は、不適格案件の発生その他により確認検査業務管理体制に不適切な内容が発見されたときには、不適格案件の再発防止等のため、不適格案件発生の原因を除去するための処置（以下「再発防止措置」という。）をとる。再発防止措置は発見された不適格案件の影響に見合ったものとする。

- 2 機関は、再発防止措置に関する以下の事項を定める。
 - (1) 不適格案件の内容確認
 - (2) 不適格案件発生の原因の特定
 - (3) 不適格案件が再発しないことを確実にするための処置の必要性の評価
 - (4) 必要な措置の決定及び実施
 - (5) 実施した処置の結果の記録

(6) 是正処置において実施した活動の評価

第6章 その他確認検査業務の実施に関し必要な事項

(書類の備置及び閲覧)

第45条 機関は、法第77条の29の2に基づく書類の閲覧の求めに適切に対応するために、本社及び支店に設置及び体制を置く。

(事前相談)

第46条 機関に確認、中間検査又は完了検査を申請しようとする建築主は、申請に先立ち、機関に事前に相談をすることができる。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第47条 機関は、電子情報処理組織による申請の受付及び図書の交付を行う場合は、情報の保護に係る措置について別に定める。

(図書が円滑に引渡しされるための措置)

第48条 機関は、指定機関に関する省令第31条の規定に基づく書類の引継ぎを行うこととなった場合に、円滑に引渡しを行うことができるように、予め必要な措置を講じる。

(付 則)

この規程は、平成22年1月26日より施行する。

附属文書一覧

この規程の各条文で定める様式は以下の表に掲げるものとする。

様式 A

様式 A-01 : 身分証の様式

様式 A-02 : 確認申請書の引受承諾書

様式 A-03 : 消防長等の同意を求めるときの書類

様式 A-04 : 消防長等に対して通知を行う場合の通知書

様式 A-05 : 保健所長に通知を行う場合の通知書

様式 B

様式 B-01 : 確認の申請の取り下げ届

様式 B-02 : 中間検査の申請の取り下げ届

様式 B-03 : 完了検査の申請の取り下げ届